

## 災害記録等

### ○ 千歳市の風水害発生記録

年 月 日	災害の種類	災害の概要
昭和25年8月27日 ～28日 (1950)	洪水	大雨で千歳川氾濫
昭和29年11月5日 (1954)	大火	幸町2丁目で火災発生。17棟延焼
昭和30年7月22日 (1955)	豪雨	千歳、追分地方に局地的豪雨、ケヌフチ、ママチ川が氾濫。被害額7,407千円
昭和30年9月11日 (1955)	大火	幸町1丁目から出火、隣接市町村消防の応援を仰いだが開基以来の大火となる。170世帯焼失、被害額139,250千円
昭和34年4月23日 (1959)	豪雨	豪雨、胆振地方を襲い河川が氾濫、道路が決壊。被害額2,332千円
昭和34年9月5日 ～6日 (1959)	豪雨	道央に200mmを超える局地的豪雨、美笛川の氾濫により道路決壊、橋梁流失。損害3,666千円
昭和36年5月1日 (1961)	大火	幸町5丁目に大火発生、千代田町6丁目に飛火延焼。30棟全焼
昭和37年7月24日 ～25日 (1962)	豪雨	道南地方を中心に梅雨末期の大雨。下釜加、長都地区に住家浸水189戸、その他農作物の被害が発生。被害額79,711千円
昭和37年8月3日 (1962)	台風	台風第9号、第10号が連続して当地方を襲い、200mmを超える豪雨をもたらし、家屋浸水、道路、農作物被害が発生。被害額78,000千円
昭和38年5月24日 (1963)	強風	強風により農作物に被害。被害額24,286千円
昭和39年6月3日 ～4日 (1964)	豪雨	豪雨により釜加地区に住家浸水及び農作物被害。被害額66,800千円
昭和39年9月 (1964)	冷害	冷害により農作物に被害。被害額317,000千円
昭和40年2月15日 (1965)	雪害	40cmの降雪により美笛地区260世帯孤立
昭和40年9月11日 ～18日 (1965)	台風	台風第23号、第24号により住家の浸水133棟、農地の被害311ha。美笛地区では崖崩れにより死者2名、建物の全壊6棟
昭和41年8月17日 ～21日 (1966)	豪雨	集中豪雨により釜加、美笛、泉郷地区を中心に住家浸水495棟、農地被害306ha、被害額47,845千円

昭和44年2月5日 (1969)	雪 害	豪雪のため駒里地区養鶏舎が22棟倒壊、ニワトリ15,000羽が死亡したほか他の地域にも被害。被害額51,468千円
昭和45年3月16日 (1970)	雪 崩	豪雪のため美笛～モラップ間（砥石山付近）に雪崩が発生、1名死亡、2名救助
昭和50年8月23日 (1975)	台 風	台風6号により、ケヌフチ川、祝梅川決壊。被害額395,000千円
昭和56年8月3日 ～6日 (1981)	大 雨	8月3日から6日にかけての前線と台風第12号により千歳で327mm（支笏湖で315mm）の降雨量を記録。災害対策本部設置。ケヌフチ川の決壊、祝梅川及び千歳川無築堤部分からの溢水その他により、床上浸水62世帯、床下浸水63世帯。釜加、根志越、中央及び祝梅の一部に避難命令が出され、延117世帯、470名が避難。また農地の浸冠水のほか道路、河川、橋梁等公共施設に被害があり、被害総額は約3,191,000千円
昭和56年8月21日 ～24日 (1981)	大 雨	8月21日から24日にかけての台風第15号と前線により千歳で169mm（支笏湖で254mm）の降雨量と瞬間最大風速33.8メートルを記録。床上浸水31世帯、床下浸水162世帯のほか一部破損住家被害143世帯、非住家の全壊・半壊31棟に達した。また、農地の浸冠水のほか、道路、河川、橋梁、街路樹に被害を与え、被害額は約1,139,000千円
昭和60年9月1日 (1985)	台 風	台風第13号により床上1棟、床下12棟、落橋等被害額は約27,220千円
昭和62年7月1日 (1987)	火 災	落雷により2空団オイルタンク火災 被害額は約127,659千円
昭和62年8月26日 (1987)	大 雨	千歳で降雨量254.5mmを記録 床下28棟、農地の浸冠水、道路、河川、農業用施設ほか被害を与え、被害額は約290,720千円
昭和62年9月1日 (1987)	台 風	台風第12号の大風によりポロピナイ公衆便所半壊、風により街路樹等の倒木等367本ほか被害を与え、被害額は約6,194千円
平成元年9月3日 (1989)	大 雨	農地の浸冠水、ポロピナイキャンプ場南20号川6ヶ所に被害を与え、被害額は約90,323千円
平成2年4月23日 (1990)	大 雨	千歳で降雨量121.0mmを記録。床上浸水1棟、床下浸水2棟、農地の浸冠水、道路、河川、農作物に被害を与え、被害額は約132,268千円
平成2年9月28日 (1990)	大 雨	湖畔第1道路の法面崩壊ほか、道路計3ヶ所に被害を与え、被害総額約27,412千円
平成5年9月 (1993)	冷 害	冷夏、日照不足により水稲、豆類等の農作物に被害。被害総額約780,000千円（平成5年10月5日現在）
平成13年9月11日 ～12日 (2001)	台 風	台風第15号により災害対策本部設置。農業被害により、被害総額約170,000千円
平成15年9月13日 ～14日 (2003)	台 風	台風第14号通過に伴い、美笛キャンプ場に被害を与え、風による倒木のため1名死亡、2名負傷

平成16年9月8日 (2004)	台 風	台風第18号により災害対策本部設置。暴風被害で支笏湖地区が一時孤立するなど、多くの倒木、農業被害が発生した。
平成20年2月24日 (2008)	暴 風 雪	暴風雪による吹き溜まりのため、200台を超える車両が、一昼夜、郊外の道路上で立ち往生。人命救助のため暴風雪では初めてとなる災害対策本部を設置し対応。自衛隊の災害派遣を要請し対応にあたった。人的被害なし
平成25年8月20日、 24日～27日 (2013)	暴 風 雨	ダウンバースト及びガストフロントによると考えられる突風や降雹により、倒木、農業被害が発生。被害額約277,535千円
平成26年9月10日 ～11日 (2014)	大 雨	北海道で初めて発表された「大雨特別警報」により災害対策本部を設置し、大和、桂木、蘭越、新星地区及び支笏湖地区に対し避難勧告を発令した。支笏湖畔では、11日の日降水量で観測史上1位となる276.5mmを観測したほか、24時間降水量や48時間降水量等複数の観測値で観測史上1位を記録した。概算被害額は国道と道道を除く千歳市内で約120,000千円に上った。
平成30年9月4日 ～5日 (2018)	台 風	台風21号により多くの倒木や農業被害が発生し、支笏湖地域では、国道や道道の通行止めや停電等が発生した。 (翌9月6日に北海道胆振東部地震が発生した。)

(注) 噴火災害、航空機墜落事故災害の記録を除く。